

巻 頭 言

学会は研究を育てる場

支部長 高橋修平（北見工業大学）

今年度より雪氷学会北海道支部長となりました高橋修平です。よろしくお願いします。強力な理事会メンバーに支えられて支部の運営は順調に進んでおります。

今年も北海道支部研究発表会では22件と多くの発表がありました。発表申し込み状況の随時報告を聞いていると、締切り日の結構前から続々と申し込みが舞い込み、予定数を十分越えたということで予定通りの締切り時間で申し込みを打ち切ったとのこと。一頃は、締切りになっても発表件数が集まらずに、追加募集を個別に募っていた時期もあったのに、研究活動が活発になったものです。

研究発表会は、発表者にとっては自分の研究成果を披露する場ではありますが、同時に、多くの人に聞いて頂き、貴重な意見をもらう場でもあります。そのためには発表者はわかりやすく説明し、疑問点は素直に提示し、かつ質問をしたくなるような興味ある話をすべきです。そうすると経験豊かな先輩達が色々と助言をしてくれることになります。つまり、学会という場が研究を育てているのであり、その成果は個人の成果でもありますが、学会の成果でもあります。

秋の全国大会である雪氷研究大会は予稿集の提出だけで、後は当日の発表だけに終わりますが、北海道支部研究発表会では「北海道の雪氷」として後からしっかりした電子媒体および印刷物が発行されます。これは、若い研究者にとっては本格研究論文誌に投稿する訓練にもなり、雪氷技術者にとっては社会に対する立派な公開の場となります。またベテラン研究者にとっては自由に自分の研究主張を述べる場ともなります。

大学もそうですが、学会も研究、教育、社会貢献の3つの面が大切です。研究業績主義が行き過ぎて、査読付き学術誌にしか投稿しないという傾向もありますが、研究教育であり、社会貢献の場でもある支部研究発表会および「北海道の雪氷」を大切にしていかななくてはと思います。

研究発表会に関しては、深見浩司理事、久保雅弘理事ほか研究発表会実行委員が開催実行に当たり、「北海道の雪氷」の編集に関しては榎本浩之理事他が携わりました(次頁参照)。また発表会当日は北海道電力総合研究所および日本気象協会北海道支社から御支援を頂きました。最後に、発表会の座長の方々および質疑に加わって頂いた参加会員の皆様に感謝してここに記します。

2010 年度日本雪氷学会北海道支部研究発表大会実行委員

深見浩司，久保雅弘，松澤 勝，金田安弘，原田裕介，杉山 慎，丹治和博

北海道の雪氷 No. 29 編集委員

榎本浩之，澤柿教伸